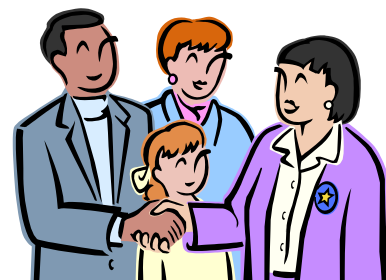


# 学習会 「いろいろな暮らし方」ご報告

去る8月20日(火)札幌市社会福祉総合センターにて、社会福祉法人はるにれの里 地域支援ゆうゆう 所長の佐藤貴志氏を講師にお迎えし、学習会を開催しました。40名の方にご参加いただきました。

社会福祉法人はるにれの里の実践を中心に、支援のベース、地域での暮らしの実際について教えていただきました。

はるにれの里での32か所(136名)のケアホームでの生活について、また一人暮らしの方への支援の取り組みについてもお話いただきました。お話しの中で、『「行動上の問題が激しい自閉症の人の地域での暮らしを支える」ことができるかどうかは、本人の問題ではなくそれ以上に支える側の仕組みがしっかり整っているかどうかの問題である』という言葉が印象的でした。



これからの課題の中では、障害者総合支援法の動向についてお話しいただきました。H26年度からのCH・GHの一元化、障がい程度区分の見直し、小規模入所施設、重度訪問介護について伺いました。

他には、高齢化対策、建物維持管理、人材確保・育成、くらしの場の整備、成年後見についてもお話いただきました。

高齢化に伴う取り組みについては、40代、50代の方のケアホームについてはバリアフリー化をすすめていること、また生活介護事業所においては、仕事をするばかりでなく、頑張らずに余暇的な要素を持ち楽しみに遊びに来られる場を少しずつ作るようにしているとのことでした。

健康面では、各エリアの看護師配置は現在あるが、今後訪問看護や訪問診療の仕組み、医療の面のカバーについて、高齢化に伴う介護の面について、介護の部分の人材をどう確保するか、議論をしているとのことでした。



高齢化に対しても取り組みは、法人内でもそれぞれの事業所が果たす役割について十分議論し、今後取り組むべき課題であるとお話しされていました。

成人期移行の暮らしを支えていくには、一つの法人単体のみでは支えていけないこと、様々な機関、地域などとの連携、社会資源の活用が重要であると考えているとのことでした。

(齊藤圭美)

参加いただいた皆様のご感想を掲載させていただきます。

●卒後の就労のことだけで頭がいっぱいになっていて、今回の内容のような事も、しっかり知っておくことが必要だと実感しました。(非会員・保護者・子：中学3年)



●とても勉強になりました。久しぶりの学習でした。私は自閉症の親で60歳になりました。本人は、いま36歳です。本人のこれからの生活はどうなっていくのか、40歳、50歳、60歳の自閉症はどのようになっていくのか、想像が付きません。(会員・保護者・子：36歳)

●私は特別支援教育について学んでいる学生ですが、教育について学ぶ際に将来について考えることはとても大切なことであると考えます。今回はケアホームについてのお話を聞かせていただいて、地域に出るということを第一としているということが分かり、詳しいお話を聞くことができ大変勉強になりました。ありがとうございました。(非会員・学生)

●これからの課題に関する、または限定して、再度お話を聞いて勉強していきたいと思えます。

(会員・保護者・子：社会人4年目)



●余暇活動が充実しているのが素晴らしかった。

(会員)

●ケアホームの現状が詳細に情報が得られてよかったです。

(会員・保護者・子：高2)

●はるにれさんは自閉症に特化していて非常に理想的。はるにれさんのケアホームに入れたら、これほど安心なことはないが、では、どうやったらはるにれさんのケアホームに入れるのか？他の施設に通っていたら難しいようだが・・・狭き門と思われ、残念である。高額な自費負担でもよいから入れたい親は多いと思う。はるにれさんの現状は安すぎ。後々、経営が苦しくならないか？

(会員・保護者・子：成人)

●将来の事を考えていくことの大切さを知りました。

(会員・保護者・子：高等部3年)

